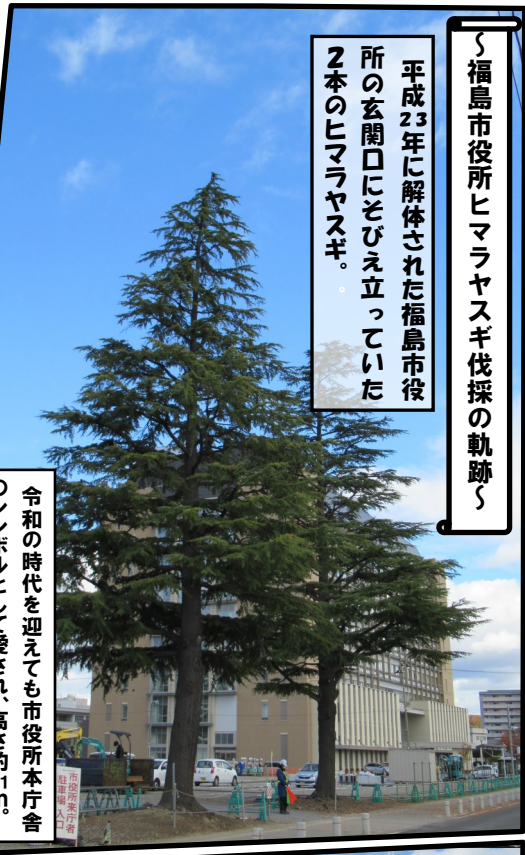


福島市役所ヒマラヤスギ伐採の軌跡

平成23年に解体された福島市役所の玄関口にそびえ立っていた2本のヒマラヤスギ。

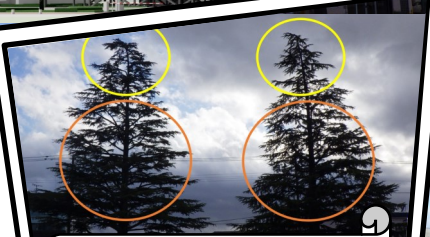


令和の時代を迎えても市役所本庁舎のシンボルとして愛され、高さ約21m。

令和6年度完成予定の(仮称)市民センターでも引き続きシンボルの役目を果たす計画で進んでいた。

しかし...

歩行者等の安全確保のため歩道上部の枝打ちが必要であることが発覚。枝打ちによる影響や現在の発育状況について樹木医による調査を実施。



診断書  
長年、駐車場の一部で、生育環境は不十分。先端は曲がり、枝葉の密生具合はスカスカ。南面の枝打ちすることで表皮が日焼けし、菌による腐食は不可避...  
樹木医

現時点でも弱体化が指摘される中、(仮称)市民センターの整備により、これ以上のダメージは将来的な倒木のリスクを高める可能性があるとの指摘。ヒマラヤスギは移植するにも不向きで、挿し木等での生育も簡単ではない。新しい施設の利用者や歩行者、周辺地域の安全を優先するため、2本のヒマラヤスギは止む無く伐採されることになった。

伐採前には、これまでの感謝と今後の安全を祈願し、

由緒ある神社による清祓い。



工事当日の朝...

伐採が始まると雲はすっかり晴れ、



作業は3日間にも及んだが、



大型クレーン車を利用し、丁寧に伐採されました。  
新時代の市民の多用途拠点となる(仮称)市民センターに、シンボルとしての役割を引き継ぎ、ヒマラヤスギは役目を終えました。